

新たな形状の魚道に対応した機能評価表の検討

福島県内水面水産試験場 調査部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－漁場環境

2 担当者

榎本昌宏

3 要旨

県内河川には不具合がある魚道が多く存在しており、魚類をはじめとした生物の移動の障害となっている。内水面水産試験場では魚道の機能評価表を作成し、平成15年以降、208カ所の河川横断構造物について機能評価を行ってきた。しかし、近年は魚が遡上しやすいとされる魚道が設置される事例が増えてきた。そのため、従来の評価表では対応できない場合も出てきたことから、新しい形状の魚道に対応した機能評価基準表を作成した。

- (1) 対象とした魚道の形状は、バーチカルスロット型と全面魚道とした。
- (2) 評価は4つの項目（入口に集まるか、魚道に入れるか、魚道を上れるか、出口から出られるか）とし、各項目の中に小項目を設け、基準を定めた。
- (3) 評価の際には、各小項目を3段階（○△×）で評価したうえで、各項目を3段階（A:問題なし、B:改善が必要、C:改善が必要）で評価する。総合判定は、各項目の評価を踏まえ、総合的に判定する。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成21年度～24年度
- (2) 研究課題名 内水面漁場環境調査（魚道機能評価調査）
- (3) 参考となる成果の区分（指導参考）

5 主な参考文献・資料

- (1) (社)ドイツ水資源・農業土木協会(1996): 多自然型魚道マニュアル
- (2) 廣瀬利雄・中村中六(1991): 魚道の設計
- (3) 建設省河川局治水課(1993): 魚ののぼりやすさからみた河川横断施設概略点検マニュアル(案)
- (4) 建設省湯沢砂防事務所(2010): 溪流砂防における魚道の機能評価に関する検討